

## 2015年 年頭所感

平成 27 年の新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、平素より当協会にお寄せいただいておりますご協力とご支援に対しまして、まずもって厚く御礼を申し上げます。

また、関係官庁並びに関係機関の皆様には日頃より格別なご指導を賜り、また本日、公務ご多忙の中、ご臨席を賜り併せて心より御礼申し上げます。



(一社)日本陸用内燃機関協会  
会長 荻田 広

昨年は、豪雪や大型台風の来襲、火山活動の活発化など自然災害が相次いで発生した年でした。被災された皆様には改めてお見舞い申し上げますとともに、本年が災害のない平穏な年となることをお祈り申し上げます。

さて、昨年 2014 年の幕開けは、アベノミクス景気に東京オリンピック招致が重なり近年になく明るいスタートでしたが、その後は消費増税やその反動減が続き、どうやら景気の山は年初で、アベノミクス景気は最短で終わったとの見方も出て、年初の期待とは裏腹に不透明感の強い一年だったように思われます。昨年 12 月に発表された 7～9 月期の実質 GDP の二次速報値も多くの予想を覆してさらに悪化、2 期連続のマイナス成長により、安倍首相は消費税 10%の先送りを決断、年末の総選挙を経て、2015 年は「アベノミクスの前進」から始まることになりました。今年こそ経済最優先、キーとなる成長戦略を成功させ、日本の再浮上を何としても期待したいところです。

次に我が国の陸用エンジンの昨年の生産状況ですが、1～8 月実績で国内と海外を合わせた総生産台数では、ディーゼルエンジンが 122 万台で対前年同期比 8%の増、ガソリンエンジンは 847 万台で 1%の減となっております。これにガスエンジンを含めた合計生産台数は 975 万台、前年並みで推移しております。この 975 万台を単純に年間台数に換算しますと 1,460 万台となり、ほぼ一昨年と同レベルが予想されます。

傾向的には、まずディーゼルエンジンが国内外の生産台数でかなり善戦していること。しかしながら、海外生産比率で 3 ポイント減の 25%と、海外生産の拡大傾向には多少ブレーキがかかったこと。そして昨年 4 月の消費増税後の影響はさほど出ていなかったこと。の三つがあげられます。

次に、私共が手掛ける陸用エンジンの環境対応についてですが、私共が生産するエンジ

ンは、世界的には「ノンロードエンジン」というカテゴリーに入り、自動車や二輪車に次ぐ大きな市場を持っております。このほど、そのノンロードエンジンを対象とした各国の業界団体やメーカーが一堂に集まる、IICEMA 国際内燃機関工業会という会合が正式に発足しました。目的は、「ノンロードエンジンの排出物規制等に関するグローバルハーモナイゼーションを国際業界団体の立場からイニシアチブを取ってゆく」としており、陸内協としても責任ある貢献をしてゆかねばならないと考えております。

これまで私どもが手掛けてきた陸用エンジンは、我が国の建設機械・産業機械・農林業機械・発電機などの動力源として発展し、環境対応をはじめとする様々な社会ニーズの変化に的確に応えることによって成長を続けてきました。我々陸用エンジン業界が我が国の産業の中核として、今後も活力ある経済社会実現のため、その牽引役を果たしていかねばならないと確信しています。陸内協としましても、その責務をしっかりと果たし続けていく所存です。

最後になりましたが、本年が皆さま方にとりまして良い年でありますよう心からお祈り申し上げますとともに、ますますのご発展とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。